

平成28年度 岡山県学力・学習状況調査 結果のまとめ

実施日 : 平成28年4月19日
実施学年 : 中学校第1学年
実施内容 : 学力調査(国語・社会・数学・理科)
学習状況調査

平成28年12月
瀬戸内市教育委員会

平成28年度岡山県学力・学習状況調査(中学校第1学年実施) 瀬戸内市の結果概要

1 学力調査結果概要

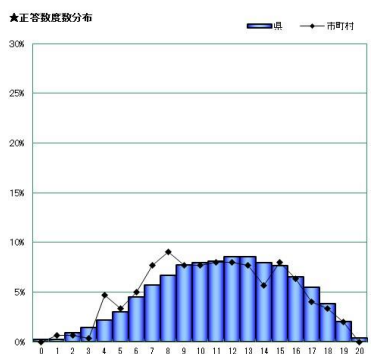
(1)国語

分類	区分	平均正答率		
		瀬戸内市	県	県との差
基礎活用	教科全体	61.8	64.9	▼ 3.1
	基礎	66.0	68.6	▼ 2.6
	活用	52.0	56.4	▼ 4.4
領域	話すこと・聞くこと	56.2	60.6	▼ 4.4
	書くこと	55.9	59.3	▼ 3.4
	読むこと	47.4	50.3	▼ 2.9
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	71.4	74.4	▼ 3.0
観点	話すこと・聞くこと	56.2	60.6	▼ 4.4
	書く能力	55.9	59.3	▼ 3.4
	読む能力	47.4	50.3	▼ 2.9
	言語についての知識・理解・技能	71.4	74.4	▼ 3.0



(2)社会

分類	区分	平均正答率		
		瀬戸内市	県	県との差
基礎活用	教科全体	54.7	57.3	▼ 2.6
	基礎	56.4	59.5	▼ 3.1
	活用	50.8	52.2	▼ 1.4
領域	我が国の国土と地域の様子	55.8	61.3	▼ 5.5
	我が国の生活と産業の様子	87.1	86.4	0.7
	我が国の歴史	51.4	52.3	▼ 0.9
	我が国の政治の働き	37.8	38.8	▼ 1.0
観点	社会的な思考・判断・表現	45.5	45.9	▼ 0.4
	資料活用の技能	55.8	58.6	▼ 2.8
	社会的事象についての知識・理解	56.5	59.6	▼ 3.1



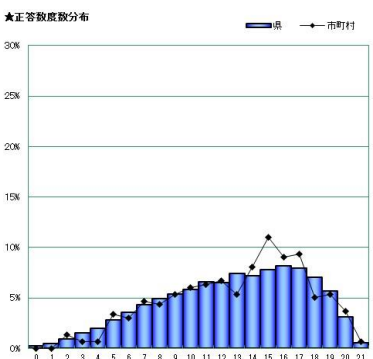
(3)数学

分類	区分	平均正答率		
		瀬戸内市	県	県との差
基礎活用	教科全体	68.4	68.1	0.3
	基礎	76.9	76.2	0.7
	活用	47.7	48.3	▼ 0.6
領域	数と計算	81.7	81.1	0.6
	量と測定	64.4	63.7	0.7
	図形	73.4	72.8	0.6
	数量関係	50.5	51.3	▼ 0.8
観点	数学的な考え方	47.7	48.3	▼ 0.6
	数量や図形についての技能	78.6	77.7	0.9
	数量や図形についての知識・理解	75.4	75.0	0.4



(4)理科

分類	区分	平均正答率		
		瀬戸内市	県	県との差
基礎活用	教科全体	61.9	60.3	1.6
	基礎	66.9	65.0	1.9
	活用	53.6	52.6	1.0
領域	物質・エネルギー	63.3	61.3	2.0
	生命・地球	60.6	59.3	1.3
観点	科学的な思考・表現	60.1	58.5	1.6
	観察・実験の技能	56.7	58.5	▼ 1.8
	自然事象についての知識・理解	72.7	67.7	5.0



3 岡山県学力・学習状況調査結果の特徴

1 学力調査結果のまとめ

(1)国語

教科全体でも、領域観点別に見ても県平均と同程度の学力が認められる。その中で、以下の力が今後の課題であることが分かった。

- ・整理してまとめる力

(2)社会

教科全体は、県平均と同程度の学力が認められる。しかし、県平均の正答率が約5割しか取れていないことから本市も同様に課題があると考えられる。以下の点が明らかになった課題である。

【領域別】「我が国の政治の働き」では、わずか8%しか正答率がない。また、「室町文化」に関する設問も5割を下回る結果になっている。さらに、「岡山県の地形」に関する問題の正答率は約3割しかなく、知識・理解の定着に課題が見られる。

【観点別】資料を読み取ったり、事象の理由等考えたりする問題の正答率が低く、資料活用の力、思考判断表現の力に課題が見られる。

(3)数学

教科全体でも、領域観点別に見ても県平均と同程度の学力が認められる。その中で、以下の点が今後の課題であることが分かった。

- ・数量関係「割合」、量と測定「図形」、「面積」

(4)理科

教科全体でも、領域観点別に見ても県平均と同程度の学力が認められる。その中で、以下のことが今後の課題として明らかになった。

- ・実験、観察の結果をもとに考えることや説明すること

2 学習状況調査の特徴

これまで過去の各種調査と同様に、「今住んでいる地域の行事に参加している」と回答した生徒が、県平均と比較して高く、今年度も地域への関心が高い。

一方、学校の授業時間以外の学習時間が少ない生徒の割合が全国平均より高い結果であった。家庭学習の学習時間を増加させることが今後の課題である。そのために、家庭学習の方法の定着と取り組む課題の内容の検討を図ることがさらに必要である。

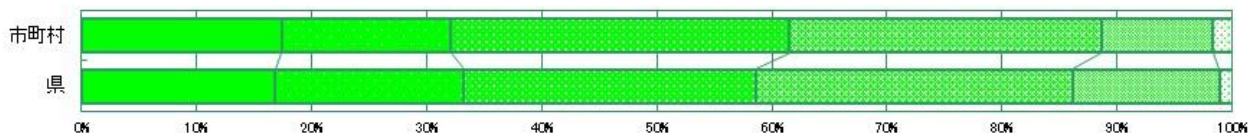
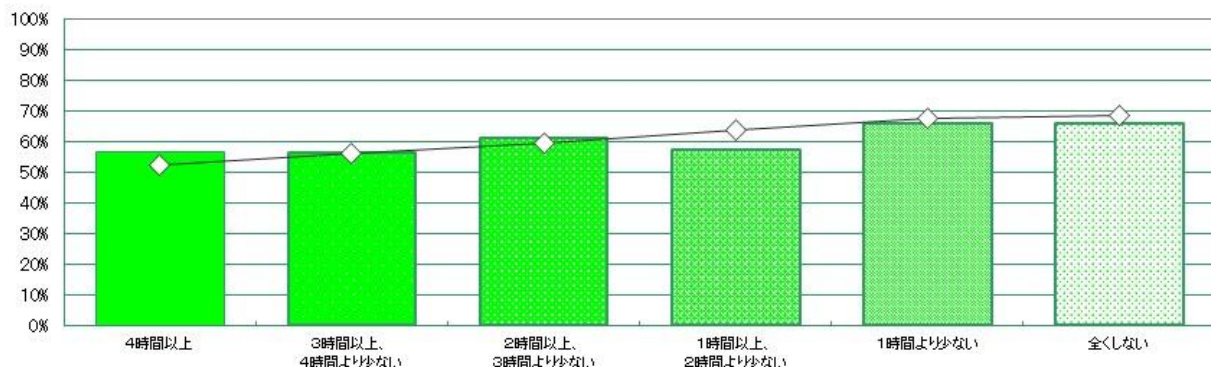
また、学習意欲の向上も同時に図らなければならない。調査結果から、国語、社会、数学(算数)、理科の「それぞれの教科が好きか」の質問項目には、「いずれの教科も好き」と回答した生徒の割合は県より下回っている。「教科の学習がおもしろい、好き」と回答できるような関心意欲を向上させる授業の工夫が一層求められる。中学1年生を対象とした調査であることから、小学校の学習経験が本調査で反映されていると考えられる。小学校における、「問題が解けた(分かった)喜び」とともに、「教科の内容に対する関心を高めるための工夫」が「授業のめあての質の向上」、「各教科での見方考え方に基づく能力の向上と学習活動の妥当性」、「授業と家庭学習の関連」に加えて求められる。

正答率クロス集計

■ 市町村 ◇ 県

ふだん(月曜日から金曜日)、1日あたりどれくらいの時間、テレビゲーム(コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームもふくむ。)をしますか。

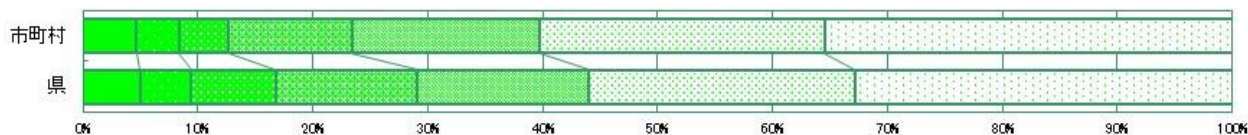
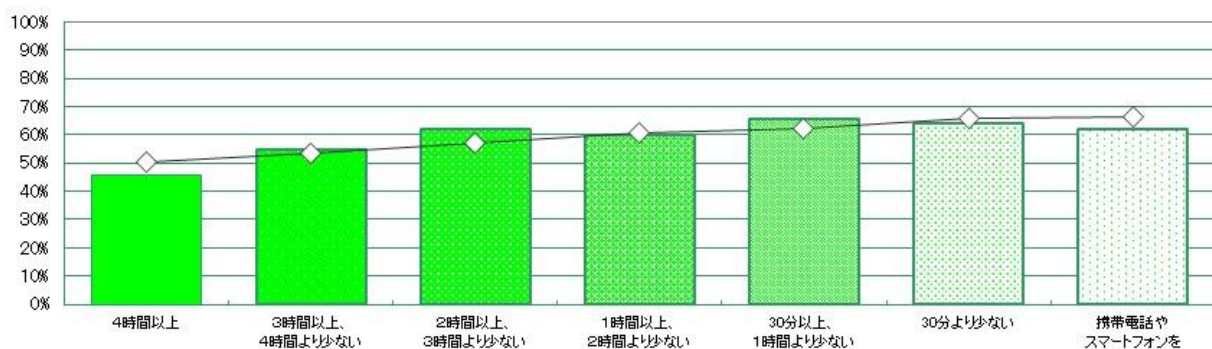
4教科平均正答率



ふだん(月曜日から金曜日)、1日あたりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしますか。

(携帯電話やスマートフォンを使ってゲームをする時間は除く。)

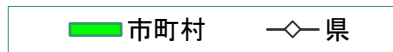
4教科平均正答率



ゲームの使用時間、携帯電話やスマートフォンの利用時間が長いほど、正答率が低くなる傾向が見られ、ゲームの使用時間、携帯電話やスマートフォンの利用時間と正答率には相関関係が見られる。ただ、必ずしも使うから学力が低いとは言い切れない。

この結果から、メディアの適切な利用(特に利用の規制を自分でできるようにする指導)について、今後指導を充実していくことが、学力向上にも繋がると考えられる。

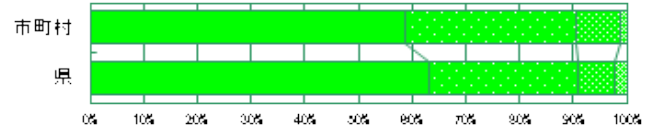
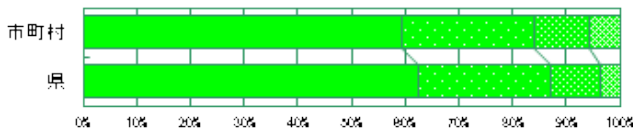
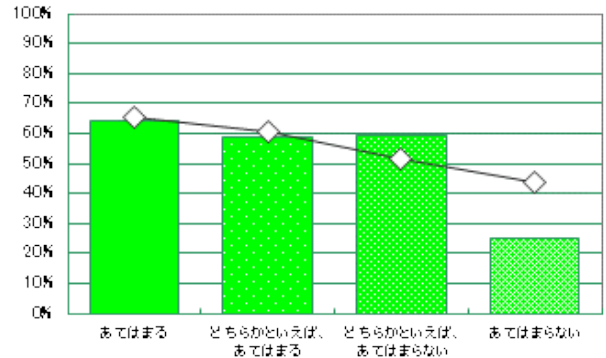
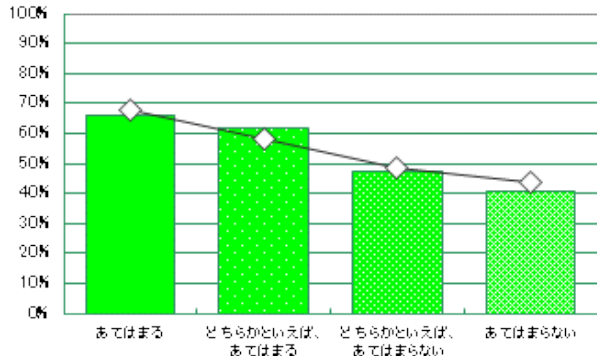
正答率クロス集計



☆ 学校では、どのように学習が進められていましたか。
授業のはじめに、学習のねらいや目標が示されていた

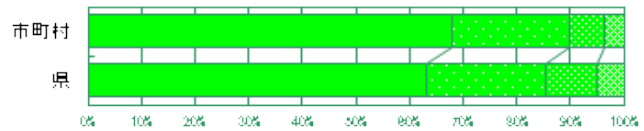
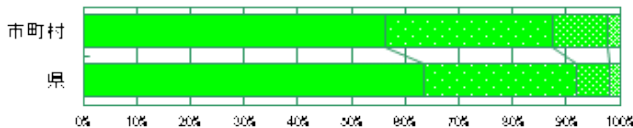
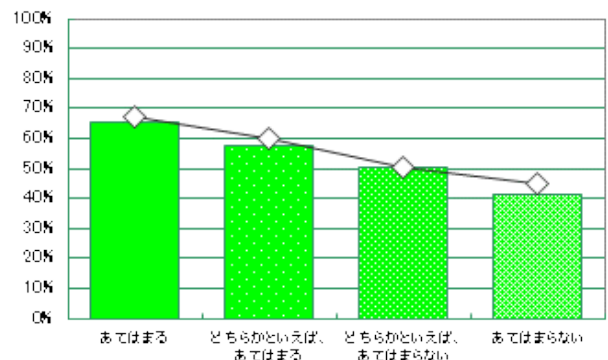
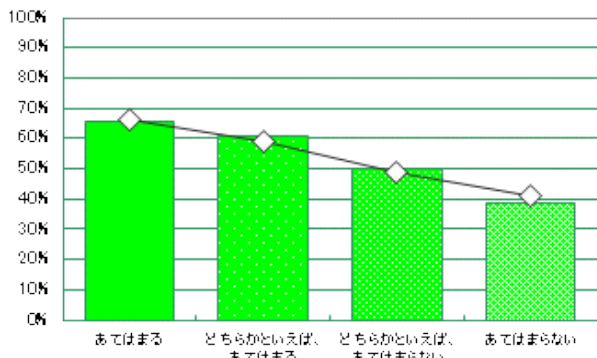
授業の中で、グループで様々な考えを出し合ったり、
考えを深め合ったりしていた

4教科平均正答



授業の中で、自分の考えをもつ時間があつた

授業の終わりに、学習のまとめや振り返りをしていた



「授業のはじめに、学習のねらいや目標が示されていた」「授業の中で、自分の考えをもつ時間があつた」「授業の中で、グループで様々な考えを出し合ったり、考えを深め合ったりしていた」「授業の終わりに、学習のまとめや振り返りをしていた」という授業の構成を実現することで、正答率は高くなっている。岡山型学習のスタンダードを取り入れていることもうかがえる。今後は、「授業の中でグループで様々な考えを出し合ったり、考えを深め合ったりする」授業の一層の工夫が求められる。